

令和5年度 矢吹町学校規模適正化検討委員会（第2回専門部会） 議事要旨

会議名：令和5年度 矢吹町学校規模適正化検討委員会 第2回専門部会

日時：令和5年8月28日（月）18:15～20:00

場所：矢吹町文化センター 小ホール

参加者：委員19名（委員長、副委員長含む）

【以下、議事要旨】

(1) 開会（教育長あいさつ、会長あいさつ）	
教育長	前は委員一人ひとりから統合に関するご意見をいただき、会長に方向性をまとめていただいたが、委員の皆様におかれては様々なご意見があることが分かった。よりよい幼稚園に関する検討を行うため、引き続き皆様のご知見をお借りしたい。
会長	前は委員の皆様のお考えをお聞かせいただいたうえで、統合は避けられないという結論となった。今後はより具体的な議論に入るため、本日も活発な議論をお願いしたい。

(2) アンケート調査結果（修正公表版）について	
会長	事務局、説明をお願いします。
事務局	資料1に基づき、住民アンケート結果の修正内容について説明
会長	質問等ありますか。
委員	なし。
会長	意見なしとのことであるため、こちらの資料を公表させていただく。

(3) 町立幼稚園視察の実施結果について	
会長	事務局、説明をお願いします。
事務局	資料2に基づき、町立幼稚園視察の実施結果について説明
会長	質問等ありますか。
委員	なし。

(4) 幼児教育にとって望ましい再配置に関する幼稚園数と実施時期について	
会長	事務局、説明をお願いします。
事務局	資料3、4に基づき、再配置に関する幼稚園数と実施時期について説明
会長	統合の方向性に関する意見や資料の内容に関する質問等ありますか。

委員	なし。
会長	専門部会の総意としては、概ね統合について賛成であると理解した。統合に向けては、事務局提案によると A,B,C の 3 パターンが考えられる。この点に関してグループで意見交換を行った後、ご意見をいただきたい。
委員	統合にあたっては立地場所が重要となる。3 園を 1 園に統合する場合であれば幼稚園の立地場所がどこになるか、町の考えをお聞かせいただきたい。
事務局	町有地のなかで広く検討するというよりは、まずは既存幼稚園敷地の活用を検討することになると思われる。
委員	各園とも老朽化が進行している。いずれかの幼稚園に統合するとしても、老朽化は避けられない。統合するのであれば、新しい幼稚園を設置してはどうか。また、地理的には矢吹町の中央に立地することが望ましいのではないか。
委員	区長会では、既存幼稚園のいずれかに統合するのではなく、新しい場所で幼稚園を新設するという想定をしている方が多かった。
グループワーク（協議）	
委員	幼稚園をどこに設置するのが分からなければ判断しにくい。個人的な想定では町の中央部に新しく幼稚園を建設し、中央幼稚園と 2 園体制となるかとも考えていた。
委員	幼稚園の老朽化が進んでいることから、町の中心部に新しい幼稚園を設置してほしい。
副会長	基本的には一度に 4 園を 1 園に統合する C パターンが望ましいと思われるが、小学校との連携という観点も重要である。長期的に考えるのであれば、小学校の再配置に合わせて幼稚園の統合を実施していくことも考えられるのではないか。また、4 園を統合して 1 園に統合したとしても、児童数の減少により各学年 3 学級を維持し続けることはできず、各学年 2 学級に減らすことになり空き保育室が 3 室ほど出ると考えられる。であれば、まずは中央幼稚園以外の 3 園を統合し新幼稚園を設置したうえで、中央幼稚園の園児数減少が進めば、新幼稚園で修繕等を実施したうえで統合するというのも一案である。ただしこの場合、中央幼稚園区の保護者の理解が得られるかは懸念される。
会長	可能性としては考えられるものの、やはり中央幼稚園のみ除外されることは望ましくないことから、一度に 4 園を 1 園に統合することが望ましいと思われる。ここで、幼稚園園長から統合に向けたお考えを紹介いただきたい。

委員	幼稚園側としても1学級あたり園児数11～20名が妥当と考える。ただし、3歳児学級ではより一層注意深く園児一人ひとりに目が行き届くような体制とするなど、学年によって考え方を柔軟に変える必要があると考える。また、中畑幼稚園など小規模な幼稚園では、園児一人ひとりに目が行き届く環境の良さがある一方、運動会の開催等に工夫が必要となっている。
会長	委員の皆様のご意見を踏まえ、一度に4園を1園に統合するCパターンで検討を進めることとする。

(5) 立地場所の選定に係る条件について	
会長	事務局、説明をお願いします。
事務局	資料5に基づき、立地場所の選定に係る条件について説明
会長	質問等ありますか。
委員	病院までの近さを選定条件とすることが考えられるのではないかと。
事務局	⑤防犯・防災の「非常事態・危険への備え」において評価項目に盛り込むことを想定している。
委員	幼稚園では基本的に保護者から事前に希望する病院をお聞きしており、幼稚園の判断で利用する病院を決めると問題になる可能性もある。なお、他に手段がない緊急の場合等は救急車を利用し受け入れ可能な病院を利用することとなる。
事務局	救急車利用やパトロールを考慮すると、消防署や警察署に近いということもプラスの加点になるものと考えている。
委員	園舎の敷地面積について、0～2歳児も含めて必要となる面積を算定する必要があるのではないかと。
事務局	認定こども園化の有無については今後の検討事項であるが、可能性は否定できないため、0～2歳児も含めて改めて必要な敷地面積を算定する。
会長	3～5歳児のみを対象とする現在のパターンと、0～2歳児も含めたパターンの2パターンで算定してはどうか。また、次回専門部会では候補地について具体的に議論を行うことを想定する。
副会長	必要となる敷地面積の算定にあたり各学年3学級の計9学級を前提としているが、令和8年度の園児の人数規模から考えると、年少・年中は2学級、年長は3クラスとすべきではないかと。なお、この面積基準はあくまで認可に必要な最低の面積を定めたものであり、幼児教育の観点からみて十分な面積ではないという点に留意する必要がある。また、OECD加盟国と比較すると、児童数35人に対し教員1名とする日本

	の基準は園児一人ひとりに目が行き届くようなものではないと評価されており、今後見直しの動きがあると思われる。
副会長	選定条件に関して 2 点ある。1 点目、幼小連携の観点から小学校との連携に関しても条件に反映してほしい。2 点目、世代間交流の観点から中学校・高校・短大との交流・連携も考慮できるとよい。
事務局	1 点目、小学校の統合について今後の検討課題となっているものの、どのように選定条件への反映が可能かは考えたい。2 点目、小学校・中学校・高校・短大などとの交流機会についても選定条件に盛り込めないか検討を行う。
委員	地盤の強さも重要であるため選定条件に盛り込んでいただきたい。
事務局	地盤の強さを選定条件に盛り込む。
会長	本日の協議内容を踏まえ、事務局にて選定条件を具体化し、次回専門部会で協議を行う。

(6) その他について (閉会)	
会長	事務局説明をお願いします。
事務局	資料 6 に基づき、今後のスケジュールを説明 第 3 回幼稚園専門部会は、10/12 の「たまかわクックの森」の施設視察後に開催を予定する。
会長	意見等ありますか。
委員	なし。
会長	10/12 は施設視察後に次回の専門部会を実施することとする。
副会長	認定こども園化の有無について、どこかのタイミングで方向性を決める必要がある。現状 0～2 歳の保育ニーズは満たされているものの、利用者の立場からは 0 歳から就学まで同じ園で育てられることは魅力的である。また、子どもの人口減少に伴い、いずれは認定こども園化が必要になると考えている。したがって、新しい幼稚園園舎を検討する際に、園児数の減少に伴って生じた空き教室を 0～2 歳児が利用できるよう変更できるようにしておけば、さしあたり幼稚園の統合を進めつつ、子どもの人口減少が進んだ際には認定こども園化できるようにしておくことも考えられる。
事務局	次回の専門部会では、統合後の運営形態も含めて議論できるようにしたいと考えている。

以上